

1 実施状況調査時期	令和6年12月13日（金）～令和7年1月31日（金）
2 アンケート対象校	県立高等学校（全日制）35校 定時制3校、特別支援学校12校 合計 50校
3 アンケートに回答した学校	県立高等学校（全日制）31校 定時制2校、特別支援学校10校 合計 43校
Q4 現在（R6.12.15時点）、児童生徒性暴力等の防止に向けたアンケート調査を実施しましたか。	実施した 17校 実施していない 26校
Q5 Q4で「実施した」を選択した場合、いつ頃実施しましたか。	9月…4校 10月…3校 11月…4校 12月…6校
Q6 Q4で「実施していない」を選択した場合、いつ頃実施する予定ですか。	12月：2校 1月：17校 2月：3校 3月：1校 3学期中：2校 毎学期実施している生活アンケートに追加で実施している。…1校
Q7 本調査の実施に関して改善すべき点など、ご意見があればお聞かせください。	

全員の回答が集まらない。生徒側の捉え方に差がある。教職員のことを学校が調査していることへの抵抗感が生徒にもある。

(1) ⇒ いじめのアンケートと同じで全員提出にこだわる必要はないと考えています。被害を訴えたい生徒が、安心して訴えることができる環境を整えることを優先してください。

本校のような小規模校であれば実態に応じて対応が可能であるとは思うが、大規模校となると難しい一面があるのではないか。  
アンケート回収後の対応について確認したい。実施した学校での事実ではなく、入学以前の事実が判明した場合の対応についても、

(2) 校内で（可能な場合は）事実の整理、確認をし、教育委員会へ第一報を行うといった流れでよろしいか。  
⇒ 校内での聞き取りは最小限にとどめ、管理職と共有後、司法面接につなぐなど、「学校危機管理の手引き」や「児童生徒性暴力等の防止に向けたアンケート調査の実施について」などのマニュアルの対応の流れにしたがってください。

このたびの調査について、過去のもの、学校外でのものも含めてできるだけ漏れのないように調査しようという意図は理解できる。  
しかし、アンケートで「されたことがある」という回答が出てくれば学校は必ず対応し、ある程度の成果に到達しなければならない。  
できなければそのように回答した生徒やその保護者からの信頼を失うことになる。果たして過去のもの、学校外のものについて学校として責任を持って成果に到達するまで取り組むことができるのか、不安を抱えながら今回のアンケートを実施した。

(3) ⇒ 学校だけですべての対応ができるわけではありません。関係機関と連携する必要がでてきます。学校はあくまで、発見の場であって、生徒が勇気をだして訴えてくれた際に、マニュアルにしたがって対応してください。

アンケート回答項目に時期を明記すればよかった。  
⇒ 高校入学後、調査実施年度など時期を限定してもらってかまいません。

(5) ・文科省の見本アンケートが高校生向けの文章ではなく困りました。「学校裁量で文章変更可能」にしていただいて良かったです。

(6) 本人はもちろん保護者もわからない、答えられないケースもある。

(7) 私がformsの設定に不慣れだったこともあり、アンケートフォームのコピーした際の設定の方法資料があると良かったと思いました。  
(ICT支援員さんに伺おうかと思ったのですが、タイミングが合わず。もっと自分で使ってみないといけないと反省しています。)  
⇒ 学校の担当者が一からアンケートフォームを作成する負担を軽減するために、子ども安全支援室でアンケートフォームのひな型を作成し、リンクをクリックすれば、担当者にアンケートフォームのひな型のコピーが配付できるようにしていましたが、リンクを示した用紙のみにとどまっていたため、使い慣れていない担当者の方にとってはわかりにくいくらいになっていました。わかりやすいものに改善していきます。

(8) 調査対象期間は特に示されていないが、次年度以降も当該年度（前回調査以降）に限らず、義務教育期間を含めた過去について聞くというスタンスで実施するのでしょうか。  
⇒ 各校の実情に応じて、入学後や調査実施年度を対象に実施してもらってかまいません。

(9) ・質問内容がかなりセンシティブであり、学校としてこのアンケートの実施、回収、該当者ありの場合の聞き取り等、物理的にも心理的にも大変な負担である。県教委で一括して実施していただきたい。  
・通知文や保護者宛文書のひな型には「教職員による性暴力」とあるが、生徒用アンケートのひな型にはそれが示されていないなど、対象範囲や時期が不明確であり、混乱する。明確にしていただきたい。  
⇒ 現時点では教育委員会が一括で実施することは考えていません。まずは学校で実施することで、生徒が被害を訴えやすい環境を整えて行ければと考えます。被害を受けた期間や加害の対象については、各校の実情に応じて、実施していただいてかまいません。

	生徒のアンケート回答に対してフォローする必要がある場合の、流れや具体的な対応について、各学校任せにせず示していただきたいかったです。結果、各学校で作成され、負担が増えています。
(10)	⇒ <u>負担がかかっていることは承知しています。申し訳ありません。法律に基づいたものですので、アンケートを実施しないで被害を把握した際の学校の負担を考えれば、アンケートを実施することで把握することのほうが負担軽減につながります。対応の流れの原則についてはマニュアル等に示しています。学校ごとに実情が違いますので、工夫しながら、生徒が被害を訴えやすい環境にしていただければと考えます。</u>
(11)	アンケートにおいて誰が行ったのか主語の記載がなく、混乱を招きそうであったので本校では主語を教員とした。しかし、高校の教員と限定しなかったため、被害時期がわからないので、適切ではなかったかもしれない。また、通信制生徒へもアンケートを実施したが、よかったのでしょうか。 ⇒ <u>このアンケートの趣旨は「教職員による児童生徒への性暴力等の根絶に向けて取り組むこと」ですので、主語を教員としてもらってもかまいません。加害の対象が生徒のみにならないようにしてください。あってはならないことですが、通信制の生徒が被害を受けていることもあるかもしれません。生徒が被害を訴えやすい環境を整えることを優先に考えてください。</u>
(12)	生徒にとって質問が分かりにくい所があった。(主語がはっきりしないなど) 対象となる時期がはっきりと書いていなかったため、昔の事案が出てきた。 ⇒ <u>前述のとおりです。</u>
(13)	実施担当者を校長、教頭、養護教諭、人権教育担当とし、校長、教頭のみが閲覧できるようにした。 「未回答の児童生徒には、実施担当者等から声掛けや電話連絡を行う。」の通りには行うことができないと判断し、子ども安全支援室に確認後、未回答者を教頭が担任に伝え、未回答者に声掛けをするようにしたが、なかなか回答が集まらず苦労した。 また、被害にあっていないが誤入力をするものが数人いたので、具体例は浮かびませんが設問の工夫は必要だと感じた。 ⇒ <u>前述のとおりです。</u>
(14)	・「されたある」という回答だったために聞き取りをすると、「ない」で提出したつもりだったという生徒が10名以上いました。生徒はオンラインでアンケートに答える機会が多いですが、「ある」「ない」の順に記載されているアンケートが多く、(今回のアンケートは「ない」「ある」の順だったため)よく読まずに最初の選択肢を選んでしまったと言っている生徒がいました。(実際はどうかわかりませんが) ・「用もないのに電話やSNSに連絡があった」ために「されたことがある」としている生徒がいました。このアンケートについては、他の生徒に分からないように呼び出して複数名で対応しています。事後の対応を考えると、友人間のSNSトラブル等は別のアンケートで掬い上げる形にしてもらえるとありがたいです。 ⇒ <u>ご提案いただきありがとうございました。検討します。</u>
(15)	いつごろ、誰からによる性暴力なのか アンケートにおける主語（教職員）の明確化 次年度在籍生（現2、3年生）は前回調査（令和6年11月）から新規調査実施までの期間 新入生は入学後（令和7年4月以降）から調査時期までの期間 ⇒ <u>前述のとおりです。</u>
(16)	この調査を、特別支援学校の小学部児童に実施する場合、内容的に配慮が必要だと感じる。 ⇒ <u>事前に特別支援教育課にも相談しながら、アンケートのひな型を作成しました。読むだけでは理解しにくい部分があるかと思いますので、実施する際に口頭での説明を付け加えるなどをお願いします。</u>
(17)	相手や時期を限定せず、教育委員会の提示された内容で調査した。調査はしたけれども、「ある」と答えた生徒の対応に迷う。また、全員になんらかの回答を求めるのは困難である。 ⇒ <u>前述のとおりです。</u>
(18)	「教職員からの性暴力」が必須項目であるので、教職員自身がアンケート実施のための生命の安全教育をしづらい状況にあります。よって、今回は外部講師を招へいしました。特別支援学校においては児童生徒の誤解や不安がないように丁寧な説明（性暴力とは何か、アンケートの意図は何か等）が必要であり、このような対応をしました。今後、学校のニーズに応じて講師招へいのための予算を県教委が確保してもらえるとよいと思います。または県教委もしくは教育センターが学校の支援をしてくださる体制を作ってもらえると良いと思います。 ⇒ <u>生命（いのち）の安全教育の推進が求められていますが、学校では経験がないため、生命（いのち）の安全教育が実施しにくい状況があります。生命（いのち）の安全教育の講師派遣については検討していきます。</u>
(19)	アンケートの実施について、Googleフォームでの実施の検討したが、個人情報保護の観点から電子申請サービスを利用することとした。通知に併せて、情報の取り扱いについて注意喚起があるとよい。 ⇒ <u>ご提案いただきありがとうございました。情報の取扱いについて注意喚起していきます。</u>